

授業科目	総合臨床実習Ⅰ				
担当者	田坂厚志 (実務経験者)、岩田 篤 (実務経験者)、柳 千磨 (実務経験者)、田中 稔 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	田坂厚志 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり) 岩田 篤 (理学療法士として、病院などで実務経験あり) 柳 千磨 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり) 田中 稔 (理学療法士として、病院などで実務経験あり) 相原一貴 (理学療法士として、病院や介護保健施設などで実務経験あり)				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

国内の医療施設または介護老人保健施設等で3週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の監督や助言の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験する。具体的には、ICF (又は ICIDH) の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムの立案を経験する。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設
 実習期間 3週間
 実習形態 臨床実習指導者の監督や助言の下で、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムの立案を経験する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認し、問題がある場合には解決のためのディスカッションの時間を設ける。
 実習の進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF (又は ICIDH) の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムの立案を経験する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席 (欠席 -6点, 遅刻・早退 -2点)、実習内容及び態度 (70%)、総合臨床実習症例レジメと ICF/ICIDH 枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表 (30%) 等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが課題である。
 また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック
 著者名：岡田慎一郎 他
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅰの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ 講義受講にあたって

3年間学習した内容を総動員し、臨床実習指導者および専任教員の援助や助言の下で、実際の対象者様への理学療法評価や治療プログラムの立案を経験させていただく。その経験を基に、4年次の「総合臨床実習Ⅱ」において臨床実習指導者および専任教員の援助や助言の下、適切な治療プログラムを実施することが可能となる。